

氏名 花岡 綾子	派遣国 メキシコ合衆国
派遣期間 平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月	派遣された在外施設 日本メキシコ学院日本コース
在外施設での分掌（学年や主な文章など） 小 2 担任→小 2 担任→教務部長	現在の勤務校 新潟市立岡方第一小

### 派遣された在外教育施設の様子

- ・ LICEO（リセオ）とも呼ばれ、同じ敷地内で日本コース（小中）とメキシココース（幼～高）の校舎があり、共に学ぶ世界でも珍しい国際校と言われている。
- ・ 日本コースは、約 8 割がバス通学をしている。小中が同じ校舎内で生活していることもあり、学年や学部関係なく関わる姿が多く見られる。
- ・ 毎月初めの学院朝会を始め、運動会、文化祭などの学院行事は合同で行われている。メキシコ独立記念日や死者の日などメキシコのイベントに参加したり、各学年の交流活動を通して日本文化を紹介したり、互いの文化に触れる機会が多い。
- ・ 体育館や屋内プール、グラウンド、講堂等の共用施設は、両コース間で調整して使用している。



<文化祭 和太鼓交流>

### 派遣国の様子（文化や風習など）

- ・ 陽気で明るい国民性である。すれ違う時、建物に入る時など「Hola」と自然に声を掛け合う。エレベータ内でも乗降時は同乗者との挨拶が当たり前であり、「ありがとう（Gracias）」「どういたしまして（De nada）」がいつでもどこでも自然に交わされる。「メキシコに来て感じたことは？」と聞かれ「だれでも気さくに挨拶してくれて、この国が好きになった。」という人も多かった。
- ・ 独立記念日や死者の日などのイベントが近づくと、街中の色彩が一変する。独立を祝って国旗を掲げたり、家族や死者のことを思って祭壇（オフレンダ）を飾ったり、国中で盛大なイベントが行われ、メキシコの文化を肌で感じる事ができた。
- ・ メキシコには、30 箇所以上の世界遺産がある。マヤアステカ文明に関わる古代遺跡だけでなく、地域独特の刺繍や工芸品も多い。 <死者の日のオフレンダ>



### 派遣国での生活の様子

- ・ 居住していたメキシコシティは首都であり、海外企業も多く進出している。日本食材専門店、日本食レストランも多く、食生活に不便を感じることはほとんどなかった。
- ・ 派遣職員は危険回避のため地下鉄やバスの使用がほとんどできず、自家用車で通勤していた。Uber も利用しやすい。ただ、車上荒らしやスリ、窃盗等の犯罪にいつ巻き込まれるかは分からないため、常に危機管理意識を高くしておく必要があった。
- ・ 派遣 1 年目にメキシコ地震があり 10 日間程臨時休校になった。建物の耐震性が日本とは違うため「揺れたらすぐ外へ」という避難時の違いがある。突然の通行止めで渋滞したり、水やガソリンの供給トラブルでシティ全体が水不足やガソリン不足になったり、日本では考えられない想定外のトラブルを何度か経験したが、現地採用のスタッフや長くメキシコに住んでいる日本人に情報をもらうなど助けてもらいながら生活することができた。